



あいち朝日遺跡ミュージアムの今を伝える情報誌【季刊誌】

朝日遺跡だより

朝日遺跡マスコットキャラクター
「アカ」と「クロ」

2025年12月

vol.19

企画展

弥生ファッション ～紡ぐ、織る、染める

シリーズ／発掘ファイルNo.3「多重防御施設」
ミュージアム再発見「銅鏡」
ミュージアムの草花お花実ガイド／1～3月
弥生ムラづくりプロジェクトレポート／「石包丁づくり」

学芸員がお答えするQ&Aコーナー
／考古ラボの貫頭衣の模様は弥生時代当時のものですか？
ミュージアムグッズ紹介／野帳
弥生ムラぐらし進行中／「絹の糸づくり」他

企画展 「弥生ファッション～紡ぐ、

期間 2025年10月18日(土)～12月14日(日) 場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室 史跡貝殻山貝塚交流館・ガイダンス室

主旨

布を織る技術は、縄文時代の終わり頃に大陸から導入され、弥生時代に全国へと広まりました。縄文時代にも編む技術はありましたが、機織り具を使って織る技術が導入されたことは、布づくりへの画期的な進歩だったと考えられ、それ以降、目の細かい布は機織り具でつくられるようになります。

本企画展では、弥生時代の遺跡から出土した布づくりに関する道具や、布の痕跡が付いた土器などを展示し、弥生時代の機織りの技術や染色の技術を紹介するとともに、当時の人々が身に着けていた様々な装身具を展示し、弥生時代の人々がどのようにファッションを楽しんでいたかを紹介しました。

本企画展の見どころ・ポイント

- 1 弥生時代の繊維の痕跡や、糸づくりから布づくりまでに利用する様々な道具を展示し、弥生時代の機織りの技術について考えました。
- 2 石川県小松市の八日市地方遺跡出土品から、初公開となる樹皮製品(重要文化財)を展示しました。
- 3 遺跡から出土した布などの分析から分かる、染色の材料、技術について紹介しました。
- 4 各地の装身具を展示し、弥生時代の人々がどのように身を飾っていたかを紹介しました。
- 5 朝日遺跡出土品から、紡錘車、布送具、緯打具(いずれも重要文化財)などの機織りに関係する資料を展示しました。また、初公開となる骨角製の装身具を展示しました。

あいち朝日遺跡ミュージアム企画展 あいち朝日遺跡ミュージアム

弥生ファッション

紡ぐ 織る 染める

2025 10/18 SAT → 12/14 SUN

【関連講演会等】※応募料金は要せず予約ください。

11月2日 「弥生時代の麻の糸づくりと布織り」 50円
講師：東村 純子氏(福井大学准教授)

11月30日 「骨角貝製装身具類からみた弥生社会」 50円
講師：川添 和暁氏(愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員) 明治大学資源利用史研究クラスター
吉永 亜紀子氏(総合研究大学院大学総合進化科学研究センター連携研究員) 東北芸術工科大学教授
青野 友哉氏(東北芸術工科大学教授)

12月6日 「あさひムラの弥生ムラぐらし～染織編」 25円
講師：松本 彩氏(あいち朝日遺跡ミュージアム主任学芸員)

観覧料	個人	学生	高齢者
大人	300円	200円	150円
子供	150円	100円	50円

あいち朝日遺跡ミュージアム

〒490-0902 愛知県津島市朝日遺跡1番地 TEL:0567-469-1447

開館時間 9:30～17:00 休館日 11月20日(祝日)、11月22日(祝日)、11月23日(祝日)、11月24日(祝日)

観覧料 75円

https://aichi-asahi.jp/

企画展開催中に開催したイベント

講演会・講座

企画展をより楽しめる講演会や講座を開催しました。

講演会

「弥生時代の麻の糸づくりと布織り」

開催日 2025年11月2日(日)

講師 東村 純子氏(福井大学准教授)



講座ヒストリーカフェ

「あさひムラの弥生ムラぐらし～染織編」

開催日 2025年12月6日(土)

講師 松本 彩氏(あいち朝日遺跡ミュージアム 主任学芸員)

シンポジウム

「骨角貝製装身具からみた弥生社会」 (共催：明治大学資源利用史研究クラスター)

開催日 2025年11月30日(日)

講演 「腕輪習俗からみた弥生社会」 木下 尚子氏(熊本大学名誉教授)

発表

■「本州・四国・九州域の弥生時代骨角貝製装身具類」

川添 和暁氏(愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員 明治大学資源利用史研究クラスター)

■「北海道島・続縄文期の骨角貝製装身具類」
青野 友哉氏(東北芸術工科大学教授)

■「弥生時代の出土動物依存体と骨角器素材利用
一関東地方、北陸地方、中国地方の事例から一」

吉永 亜紀子氏(総合研究大学院大学総合進化科学研究センター連携研究員)

■「土井ヶ浜遺跡出土人骨における生前の食生活と装身具の関係」
米田 穰氏(東京大学総合研究博物館教授)



織る、染める」

貴重な木製品

木製品は、土器などと比べると、出土品として残りにくいものです。地中にいる間に、常に酸素が遮断され、木材腐朽菌が活動しにくくなる環境下でないと残りません。木製品は、発掘調査で見られた時にも、できるだけ早く地中から取り上げ水漬けにすることで、保存処理を行うまで腐敗を遅らせています。

今回企画展でとりあげた資料の中に、現京都大学が1937年に唐古遺跡^{からこ}を発掘調査した際の、木製品の石膏模型がありました。当時はまだ木製品を保存する技術が発達していませんでした。朽ちてしまう木製品の記録保存をするため、当時調査にかかわっていた方々は、木製品を石鹼水で洗い、生の状態で石膏模型（雌型）を作り、その模型にさらに石膏をいれて木製品を復元（雄型）しました。今回、機織りに使う布送具という道具の石膏模型（雌型）が残されていましたが、木製品本体は残っていませんでした。

15年ほど前に、当時の石膏模型を含

めた出土品の再整理作業がおこなわれ、未報告資料の中に、似たような木製品が発見されました。発掘調査がおこなわれた当時はわかっていませんでしたが、再整理の段階では機織りに使う布送具であること、また布送具は凹部を持つ部材と凸部を持つ部材のセットで使う道具であることが判明しており、発掘調査にかかわった方々が、そのときにできる最大限の記録保存をおこなったおかげで、80年の時を経て、組み合わせ2つの部材が再会を果たした形となりました。近年では3Dの技術も発達しているので、今後この布送具の石膏模型も含め、その他の石膏模型も、実測図とあわせれば型から失われた木製品を復元することが可能になるでしょう。

石膏模型は、生の部材を石膏に押し付けたため、木材の木目や加工の痕跡などをみとることができます。今は木製品を保存処理する技術がありますが、今回資料調査をした際に話を伺う中で、木製品が発見された段階では見えた糸

のような痕跡も、木製品を保存処理する段階で見えなくなったという話も伺いました。

どの段階でどのような記録保存をして後世に伝えていくのか、また発掘調査やその整理作業の段階だけでなく、公開していく段階で、保存・保管された記録などを使ってどのようなことができるか、非常に考えさせられる展示となりました。

(松本彩)

東村純子・村上由美子 2014
[博物館資料としての石膏模型—唐古遺跡出土土器の保存と活用—]
[史林] 97巻5号



開催予定のイベント

古代体験プログラム

火起こし体験、カラフル勾玉づくりに加え、月替わりで開催の土日祝限定メニューです。(写真は作例)

アンギン編みでコースターづくり

縄文時代から使われている技法「アンギン（編布）編み」を使ってコースターづくりを行います。



1月
【時間】
15:00～(約60分)
【教材費】
50円
各回先着 10名

※編み機を使って布を作ります。小さなお子様は保護者の方とご参加ください。

土人形づくり

オープン陶土を使って土人形を作ります。作品は一度お預かりし、焼成後、館内にてお雛様風に展示させていただきます。



2月
【時間】
15:00～(約60分)
【教材費】
800円
各回先着 10名

赤彩土器づくり

パレス・スタイル土器とも呼ばれる「赤彩土器」を作ります。ベンガラを使って、オリジナル土器に仕上げましょう!



3月
【時間】
15:00～(約60分)
【教材費】
800円
各回先着 10名



多重防御施設～弥生時代に戦いがあった～

朝日遺跡を特徴付ける遺構に、多重防御施設があります。この施設は、環濠、逆茂木、乱杭など複数の遺構で構成されています。北居住域の南側、遺跡の中央を流れる谷に沿って造られており、昭和の終わり頃に発掘調査が行われた61A区では、特に良好な状態で遺構が検出されました。

遺構としては、まず北居住域をめぐる環濠が検出されています。その南側には、溝のなかに倒れ込んだ枝付きのおびただしい数の木が発掘されました。これは枝付きの木を立て並べ柵とした中世の逆茂木のような施設だと考えられています。柵列は最大2列あったことが分かっています。さらにその柵列の外側には、杭が地面に斜めに打ち込まれた遺構（杭列、乱杭）が見つかりました。映画「もののけ姫」で、城塞のようなたたら場を守る柵や乱杭が描かれていましたが、あのようなイメージに近いかもしれません。これら一連の構造物が一体となって防御施設となっていたと考えられますが、初めてこの

集落を訪れた人々には、その威圧的な姿に驚いたことでしょう。

朝日遺跡の防御施設は、弥生時代が戦乱の時代であることを象徴する遺構として紹介され、1980年代から1990年代にかけて、弥生時代像の形成にも大きく寄与しました。1996年から1997年にかけて国立歴史民俗博物館等で開催された企画展「倭国乱る」では、朝日遺跡の防御施設を復元した模型が制作され、弥生時代の戦いの場面として様々な書物でも紹介されました。

現在、朝日遺跡ミュージアム展示では、朝日遺跡ロケーションジオラマとその一部を拡大したクローズアップ模型により、この多重防御施設の構造とそこで行われたかもしれない戦闘の様子を再現しています。また、同じ展示室のアニメ映像クロスロードビジョンのなかにもこの防御施設が登場しますので、来館された際にはぜひご覧ください。

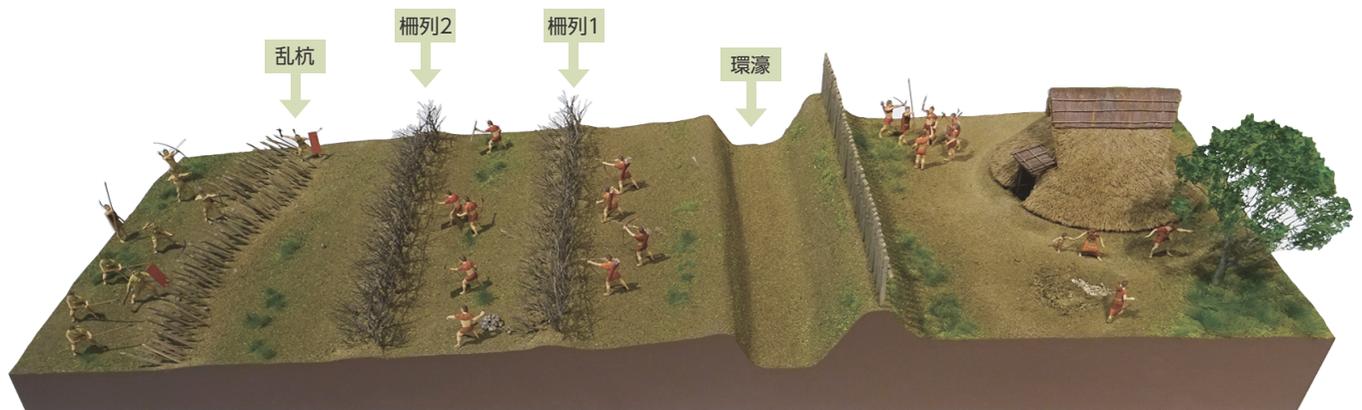
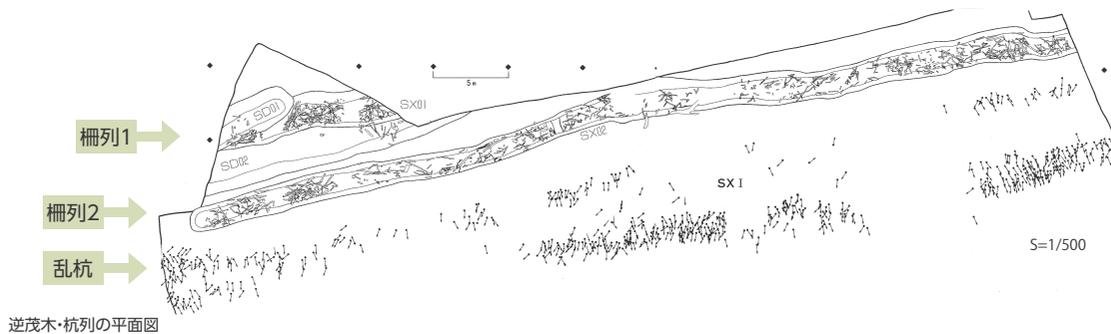
(原田幹)



乱杭検出状況



逆茂木検出状況



防御施設と戦いの模型



改めて知ると朝日遺跡のことがもっと好きになる?!

ミュージアム再発見

あいち朝日遺跡ミュージアムのスタッフが改めてみなさまに見てほしい注目スポットを紹介します。

今回は
どう きょう
銅鏡

本館基本展示室2に展示している銅鏡2点のうち1点、割れた銅鏡(破鏡)は約4.6cmと、とても小さいです。しかし、よく見ると、穴が2つ空いているのがわかります。また、「虺龍文^{モリウモン}」といわれる文様がみえます。(虺龍文…蛇に似た爬虫類動物を描いた文様)
銅鏡は当時、祭祀具や呪術具として使用していたと考えられています。同じように祭祀具として用いられたとされる銅鐸は「ムラの共有物」であったのに対し、銅鏡は個人のお墓に副葬されることが多いので、「個人の私有物」だったかもしれません。銅鐸と一緒に展示しているため見逃しがちですが、この小さな重要文化財もじっくりと見てみてください。

(増田知佳)



銅鏡(破鏡) 虺龍文鏡

知っておくと便利!
役立つことば

「銚」と「やす」 もりとやす

みなさんは「銚^{モリ}」と「やす」という道具を知っていますか?あまり聞き慣れない用語ですが、どちらも刺突漁に使う漁具です。どちらも長さ20cmにも満たないほどの道具で、長い木の棒などに結わえ、木の棒をもって魚に突き刺します。朝日遺跡の出土品は魚から抜けられないようにするためのカエシの有無で分類されており、銚はカエシ部分を加工するためシカの角で、やすはシカの中手・中足骨(人間であれば手のひらや足の甲などの骨)を利用して作られている例が多く出土しています。(松本彩)



朝日遺跡出土の銚(左)とやす(右)(重要文化財)

ミュージアムの草花お花実ガイド

1~3月

あいち朝日遺跡ミュージアムを楽しむなら
季節ごとに移り変わる植栽・草花にも注目して屋外史跡も見てみよう!



園内では、冬の寒さの中でも鮮やかな色で咲く花を探ることができます。



1月頃

サザンカ(山茶花・ツバキ科)

日本原産の常緑広葉樹で、本州西端の山口県、四国、九州等に自生しています。ツバキよりも少し早く、真冬に花を咲かせることから、庭木としても好まれ、赤やピンク、白色等、様々な園芸品種があります。園地内では、12月から2月頃まで花を見ることが出来ます。



2月頃

オオイヌノフグリ(大犬の陰囊・オオバコ科)

明治の初め頃に渡来したとされる外来種ですが、今では、国内に広く分布しており、園内でも各所で見ることが出来ます。秋に発芽して冬を越し、早春に花を咲かせ、春の終わり頃には枯れてしまいます。小さな青い花が咲き「星の瞳^{ひとみ}」という別名もあります。



3月頃

シロバナタンポポ(白花蒲公英・キク科)

この地方では珍しい白い花の咲く在来種です。西日本には比較的多く、九州や四国には黄色のタンポポよりも多い地域もあるようです。園内では、ほぼ通年花が見られるセイヨウタンポポと異なり、3月中旬から4月頃まで、交流館南東の草地で見ることが出来ます。



ミュージアム本館廊下では史跡内で注目してほしい草花を紹介する「お花実ガイド」のコーナーを設けています。植栽もヤブツバキや桑の木、シノキなど弥生時代にも通じるものを植えてあります。お花実ガイドを手にとり散策もできます。季節で自然に入れ替わる屋外展示としてお楽しみください。

YMPレポート



体験水田をとおして、弥生時代を体験する「弥生ムラづくりプロジェクト」。今回は、石包丁づくりと収穫・脱穀体験を行いました。

2025年
9/20



石包丁づくり

弥生時代に稲作が普及すると、その収穫具として石包丁が作られるようになります。まずは石包丁について、またどのように使っていたかなど講師の話聞きイメージをふくらませてから各自で石包丁をつくりました。ひたすら磨き続けた自分だけの石包丁に、子どもたちも満足していました。

2025年
10/26

収穫体験



屋外の体験水田にて実際に石包丁で収穫体験を行いました。改めて石包丁の使い方を講師から聞き、貫頭衣に着替えて弥生スタイルで収穫。自分でつくった石包丁の切れ味がよかったことが実感できる貴重な体験でした。

2025年
11/16

脱穀体験



前回収穫したお米を、臼と杵を使って脱穀。この臼と杵は朝日遺跡から出土した資料をもとに復元しました。また、ほかにも千歯こき(江戸時代)と足踏み式脱穀機(明治時代)も使ってみて脱穀技術の進化を体感しました。

YMP

年間予定

田起こし

田植え

いきもの観察会

今回はココ

石包丁づくり

収穫

脱穀

土器づくり

土器焼き

土器炊飯

弥生ムラづくりプロジェクトではみんなで田起こしから土器炊飯まで弥生時代の稲作体験に取り組んでいます。

おもてなしムラ人が活躍中

おもてなしムラ人 活動まろく

ボランティア「おもてなしムラ人」の活動をご報告します。

2025年
10月～
ムラ人デビュー



今年度のおもてなしムラ人が研修期間を経て10月から本格的に活動を開始しました。アカとクロのピブスを着たムラ人さんを見かけたら、ぜひ声をかけてみてください！

2025年
10/18
展示解説



企画展初日に、担当学芸員による展示解説会を実施。おもてなしムラ人の特権ですね。みなさん興味深く真剣に聞いてくださいました。

2025年
11/15
粘土調査



12月開催の「大人のための弥生土器づくり」で使う粘土の調査を実施。うまく焼けるよう粘土と砂の割合に注意しながら作業しました。

ボランティア(おもてなしムラ人)に興味がある人は
お気軽にスタッフまでお声がけください。

いろんなことやってます！

当館の 様々な取り組み事例紹介

施設外でのPR活動やキャンペーン等の実績から一部をご紹介します。

2025年
10/3
名古屋文理大学との連携協定



当館と名古屋文理大学は、連携協定を締結しました。朝日遺跡をテーマにした学生の研究・取り組みにご期待ください。

2025年
10/4
兵庫県で出張PR



「第33回大中遺跡まつり」にブース出展しました。多くの方が来場され皆様に朝日遺跡を知っていただける機会になりました。

2025年
10/18
来館者30万人を達成



オープンから約5年で来館者30万人を達成しました。引き続き皆様に愛される博物館を目指します！

2025年
10/25
鳥取県で出張PR



ミニ展示でもお世話になった青谷上寺地遺跡「とっとり弥生の王国 青谷かみじちフェスタ2025」に出展しました。

上記のほか様々な施設間の連携をおこなっています。
当館と施設連携ご希望の方はお気軽にご相談ください。





学芸員がお答えする弥生の Q & A コーナー



日々、ミュージアムでいただく「質問カード」に学芸員が回答し館内で随時掲示しています。その中から「これは!」という質問をピックアップして解説するコーナーです。(皆さんもぜひ当館を観覧して質問カードを書いてくださいね。)

答える人
あいち朝日遺跡
ミュージアム
学芸員 田中恵美



Q 考古ラボの貫頭衣の模様は弥生時代当時のものですか？

A 弥生時代の布が出土することは、とても珍しいことです。ごくまれに、お墓の中から弥生時代の布が出土することはありますが、いずれも小さな断片状のものです。青銅のサビにおおわれていたり、真っ黒に変色してしまったものがほとんどです。色については、貝紫や日本茜の成分が検出された絹の断片がみつかったので、紫色や赤色に染められた絹の服があったことまではわかっているのですが、模様の形がわかるほどの大きさの布はみつかっていません。また、高級な絹製の服はご

く限られた身分の高い人しか着ていませんでした。貫頭衣は庶民が着ていた服で、麻でできていたと考えられますが、麻についてはどんな色で染められていたのかもよくわかりません。弥生時代の服の模様はわからない、というのが事実です。

では、当館のキッズ考古ラボの貫頭衣は勝手な模様を描いているのかというと、それも違います。布の模様はわかりませんが、青銅器や土器などに描かれた絵や模様は残っているからです。▲を連続したギザギザ模様は銅鐸に、小さな○や曲線は土器

に、渦巻きは銅鐸にも土器にもよく使われている模様です。そんなキレイな模様を道具に残した弥生時代の人々ならば、きっと同じようにおしゃれな模様の服を着ていたのではないのでしょうか？



キッズ考古ラボの貫頭衣



インクルーシブなミュージアムをめざして...

テーマ：誰もが楽しみながら知識を得られる博物館

※「インクルーシブ(inclusive)」は、「包摂(ほうせつ)的」「包括的」「すべてを包み込む」を意味することばです。

【棚園正一氏講演会】

清須市出身の漫画家、棚園正一さんはご自身の不登校だった経験を漫画で描き、各地で講演会も行い多くの方から共感を得ています。9月には当館で講演いただき「家でも学校でもない第三の居場所としての博物館」という話は参加者からも好評でした。引き続き博物館としてできることを考えて取り組んでまいります。
※共催:ポプラの会(清須市)



野帳(朝日遺跡・赤彩土器) / 700円



製造：ココロ/チャコールブラック
発掘調査の現場等で重宝する、表紙が厚く書き込みやすいメモ帳。中面が方眼紙になっていて書き込みやすいのも人気の秘密。最近では御朱印やスタンプ帳として利用する人も。表紙デザインは朝日遺跡のパレススタイル土器。

ミュージアムグッズ



セットでまわると理解が深まる & お値打ち!

共通券がお得です

清洲城の歴史、または古墳時代など連携施設とセットで巡れば学びも2倍。年パスもオススメ!

Common admission ticket

2025.04~

清洲城

一般 550円



織田信長の居城として有名な、清洲城。歴史好きな方は清須の史跡として朝日遺跡と清洲城をセットで巡るのもオススメです。

☎052-409-7330
愛知県清須市朝日城屋敷1-1

体感!しだみ古墳群ミュージアム

一般 400円 / 高大 300円



国史跡・志段味古墳群を紹介するミュージアム。この地域の歴史を学ぶなら朝日遺跡とセットで古墳時代の史跡もめぐってみよう。

☎052-739-0520
名古屋市守山区大字上志段味字前山1367

あいち朝日遺跡ミュージアム

年間パスポート

講演会やイベント等で当館に何度も来館される方かなりお得です!

一般 1,000円 / 高大 600円

希望者には、おしらせメールも配信しています。さらに高大生は年パスキャンペーンを実施中!



その他取り組み事例:10月4日(土)キリンビール名古屋工場(清須市)と秋のウォーキング企画を開催しました。まず当館で弥生時代のお酒や酒器にまつわる話を聞き、1kmほど歩いてキリンビール名古屋工場へ移動。工場見学と試飲を楽しみました!意外と近いので当館とセットで観光がおススメ。JR枇杷島駅へのシャトルバスもあります。

ここから企画が実現する?! スタッフによる 弥生ムラぐらし 進行中

作業の様子を
ご覧いただけます!



弥生人の生活を想像して、いろいろなことにスタッフが挑戦する企画。うまくいけばみんなと一緒に楽しめる企画として実現するかも?!みなさんが知っている弥生体験、情報提供もお待ちしております。

1 糸撚りの観察

紡錘車を使うと糸が撚れる、という知識はありますが、実際どのように糸が撚られるのかが分かりづらいため、実際に紡錘車で糸撚りを体験しました。紡錘車を独楽のようにぐるぐると回すだけで糸が撚られていきます。道具を使わずに糸撚りをするのでは、撚る速さが格段に違い、当時の技術力の高さを目の当たりにしました。この感動をどのように皆さんと共有するかを考え中です。



紡いだ糸の様子を観察



錘の重さを変えて紡ぎやすさを検証

2 タデアイの葉揉み

弥生時代には藍染はまだありませんが、植物を使った染物としてとても有名なため、ミュージアムでも実験をしていきます。今回はタデアイの葉を草木灰で揉んで発酵の準備をしていきます。うまく発酵できるかドキドキです。



1.タデアイの葉を茎から外しているところ



2.草木灰を入れてタデアイの葉を揉んでいるところ

みんなの こえ



来館者の皆さまからたくさんのご意見、ご感想、よろこびの声をいただいています。その一部を紹介します。

近所に住んでるけどなかなか来られず、やっと来れた。とても楽しくじっくり見ました。展示も素晴らしい。もっと周知してみんなに見てもらいたいですね。(愛知県・男性)



展示品や写真を見ていると当時、この発掘に参加した友人たちを思い出して涙が出る。昭和46年当時、高校生で発掘バイトに誘われました。来てよかった。(愛知県・男性)



近くの屋内プールに来たついでに遊べるところがさがして来ました。親子で勾玉づくりが楽しめました!脱穀などお米作りのイベントも気になります。また来ます!(愛知県・女性)



昨日も来ました。クイズラリーが難しいですがレベルが上がるたびに違うカードがもらえて楽しいのでまた来ました。クイズラリー5をやりました。(愛知県・小学生)



玉錐が展示してあるのが興味ありよかったです。少し短いのは折れているのでしょうか。とにかくいいのが見れて来られてよかったです。(長野県・男性)



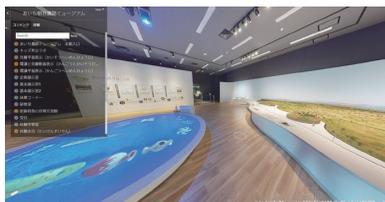
愛知のお城巡りの途中、清洲城共通券でこちらに来ましたが、クイズラリーやパズルなど親子で楽しめる。次のお城に行く予定をずらしてゆっくり見ようと思います。(埼玉県・親子)



あいち朝日遺跡ミュージアムの情報は 公式WEBサイトやSNSをご覧ください! 随時発信中です。

公式WEBサイト

<https://aichi-asahi.jp/>



企画展やイベントの開催概要、講演会・講座の申し込み、学校・団体観覧の事前申込、バーチャルオンラインツアーなどもご覧いただけます。



受付中の講演会・講座の応募、団体申込も公式WEBサイトからなら好きなタイミングで応募ができて便利。



月替わりの古代体験プログラムのメニューや、イベント告知などもチェックしてみてください。

SNS(X,instagram,Facebook)



ミュージアムからのおしらせ、日々のつづやきを投稿しています。フォローよろしくおねがいします。

<https://x.com/AichiAsahiSite>



写真映える情報を中心に投稿しています。1日限りのショート動画などもお見逃しなく。

<https://www.instagram.com/aichi-asahisite/>



体験水田でのコメづくり、土器づくり、土器炊飯は当館で毎年恒例行事となっていますが、ほかにも弥生時代には植物を育てて織ったり、染色をしていたと考えられます。そうした弥生人のような生活がどこまでできるのかスタッフが実験しています。うまくいくのかどうか、そんな試行錯誤の様子も紹介していきます。